

## 平成29年度群馬県立太田フレックス高等学校第1回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：平成29年6月30日（金）14:00～16:00

議事等

### 1 開会

### 2 校長挨拶

評議員を引き受けてもらいありがたい。現在、教育は学校だけでは成り立たない。様々な方面の方の意見で学校が動く。授業参観で日頃の生徒の様子や学校の実態を見てもらいたい。授業参観及び概況説明後に、忌憚のない意見をいただきたい。

### 3 委嘱状交付 平成29年度学校評議員（敬称略）

金子弘幸、高山美幸、橋本まさ子、大畑千鶴、高木朋重

### 4 自己紹介

### 5 授業見学

### 6 学校概要説明（校長）

#### ○新聞投稿・リーフレット等

- ・「私の大切な場所」（4月8日上毛新聞投稿）：外国籍の生徒が成長できたことを示している。本校に求められる役割と生徒の思いが合致したものと考えている。
  - ・「学校へ行けなくて悩んでいる中学生の皆さんへ」（本校ホームページ掲載・必要に応じて配付）：中学校時代、不登校で数学の基礎の修得が不十分であった生徒が、本校で学び、国立大学の理学部に進学するまでの歩みを元にしたメッセージである。
  - ・「太田フレックス高校へ行こう」：保護者の視点から、本校を説明している。子どもが様々な問題を抱えていたが、それぞれの道を見つけて卒業していく姿を伝えている。
- ※色々なものを抱える生徒を鋳型にはめて指導をすることはできない。迷っている生徒、問題を抱える生徒を、良い方向に導きたい。

#### ○生徒状況

- ・5月1日現在での生徒の在籍は定時制が554人、通信制が354人の合計908人であり、最大規模の学校である。
- ・入学者数は、社会情勢もありⅢ部は定員を満たしていない。秋入試で入ってくる生徒もいる。
- ・多様化、多国籍化している社会であるが、本校は、昨年度は16カ国の、今年度は10カ国の国籍の生徒が在籍している。これも特色の1つである。

#### ○目標

- ・教育目標は「生涯学び続けることができる生徒の育成」である。回り道をしたり、悩んだり、遅れを取り戻せなかったり、と難儀している生徒がいる。次の5点を中心課題としたい。（1）自己肯定感や自己有用感を生徒が持てるようにする。（2）少人数制を活かし、基礎力の充実を図るとともに、様々な目的を持った生徒に対して、個に応じた指導をする。（3）人格を認め合い、人権意識の高い、他者を思いやることのできる心豊かな人間性を図る。（4）ステッ

プアップサポート事業を通して授業改善をさらに進める。(5) 交通安全への意識を高め交通マナー・ルールの遵守を徹底する。

- ・多種多様な生徒に、学習の基礎基本やマナーの定着を図りたい。

## 7 各部概要説明

### ○ⅠⅡ部

- ・前後期制を採っており、それぞれの期に進路的・文化的・体育的行事が組み込まれている。
- ・昨年度の進路状況は、進学35人、就職23人、その他26人であった。卒業時においては、保護者集会を開いた上で、卒業ゼミという形で指導をしている。

### ○Ⅲ部

- ・アットホームな感じのフレックス発表会や自分をさらけ出す校内生活体験発表会等がある。
- ・今年度卒業予定者の進路希望は、大学・短大3名、専門学校10名、就職9名、未定・その他4名である。

### ○ⅠⅡ部・Ⅲ部共通

- ・本校のカリキュラムは大学のものに近い。クラス、学年がない。ゼミは、「総合的な学習の時間」「LHR」にあたるものであるが、教員が活動内容のテーマを示し、生徒が選択した上で、人数調整をする。ⅠⅡ部は、1つのゼミは16人くらいであり、Ⅲ部は10人くらいである。

### ○通信制

- ・実際に学習活動をしている生徒は164名である。
- ・今年度、新入学26名、編入学23名、転籍1名である。年16回スクーリングを予定している。
- ・編入学については、定時制は3%程度であるが、通信制では半分程度である。
- ・体育行事も行っている。
- ・卒業できるかが不安で、卒業をしてから進路を考える生徒もいる。

## 8 学校評価の説明

### ○定時制

- ・交通に関する具体的な数値目標は昨年度の学校評議員の方の意見を参考に100%に設定した。
- ・方策については、いくつかの項目でより具体的なものとした。
- ・今年度は特に、出席率と卒業生の進路決定率の数値目標達成に努めたい。そのためにも、分かる授業、教育相談、進路指導及び学校行事の充実を図る。

### ○通信制

- ・学校運営方針や昨年度の学校評議員会の意見を受けて、数値目標を上げてある。
- ・情報を共有するとともに、家庭とも連絡を取りながら、生徒理解の充実を図り、個別対応を行う。

## 9 意見拝受（学校評議員等）

- 教育の新しい試みの基本は、個に応じた指導である。一律的な教育ではなく、少人数の中で、いかにさらに個に応じた指導ができるかを研究し、オピニオン・リーダーになることが太田フレックス高校の責務である。

- コンビニで買い物をし、駅に向かう途中で、工場の金網等にゴミを縛り付ける人物がいる。もし、太フレの生徒なら指導をしてもらいたい。

○授業中に寝ている生徒がいたのが気になった。

[説明] 指導はしている。自己管理ができなかったり、生徒指導や教育相談上のハードルがいくつもある生徒もいる。中学校での欠席日数が3桁の生徒も入学し、きちんと登校することから指導する。個々の生徒の置かれた状況はまちまちである。家にお金を入れるためにアルバイトをし、疲れて寝てしまうという連鎖も見られる。

○落ち着いて授業をしているという印象を持った。先生が手を入れているのが分かった。

○カリキュラムを自己選択制とし、目的を持ちなさいと言っても難しいのではないか。

[回答] 進路セミナーを年2回行っている。2回目は1月下旬に実施し、次年度を見越した選択に活かせるようにしている。

○履修や進路に関しては、互いに模索しながら、進むしかないのか。

[回答] 学校外の機関との連携も取っている。正規採用になれるように粘り強い指導もしている。新入生には、3月に履修指導を行っている。

○自分が高校生の時のイメージとは全く異なる。クラスに生徒がぎっしりいるのではなく、少人数はよい。

○一生懸命やる生徒はやる、とりあえず卒業という生徒はそのようにやる、とそれぞれの状況に合った生活ができる学校となった。

○外見だけで判断されないのもよい。自由な雰囲気の中で学んでいる。

○中学校で問題を抱え悩んでいた生徒がニコニコしている様子を見ることができてよかった。

○外国籍の生徒の指導はどのようにしているのか。

[回答] NPOのJコミュニケーションが、年間29回、1回2時間「学習サポートクラブ」という名称で指導にあたっている。学習内容の補充だけでなく、資格等のエントリーの仕方も指導している。

○子どもの学力や生活リズムから太田フレックス高校Ⅱ部を選び、入学できるように努力をした。現在、子どもは友達や先生の力を借りながら卒業に向けて高校生活を送っている。ありがたいことである。

## 10 意見拝受を受けて（校長）

○貴重な意見をありがたく頂戴した。

○強い指導の結果、生徒が学校に戻ってこないということもあり、個に応じた指導の見極めが難しい。

○中学生やその保護者に今の太田フレックス高校をいかに理解してもらうかが課題である。

○牧歌的で文化的な地にある本校で、生徒が地域・家庭・学校に見守られながら育ってもらいたい。

○太田フレックス高校が創立され13年目になるが、今日にあったものにマイナーチェンジしていく必要がある。

## 11 諸連絡

第2回は、平成30年1月19日（金）14時より開催予定

## 12 閉会